

No. 9

5月号

令和5年
2023・4・20



日立市視聴覚センター通信

みて、きいて、学びを楽しく

みきまた

編集・発行
日立市視聴覚センター
〒317-0073
日立市幸町1-21-1
電話：0294-24-5055
FAX：0294-24-5066

参考資料:「ひたち物語—ひたちらしさの数々—」2021 日立市市長公室

1 たちわりいし 太刀割石伝説

特集

摩訶不思議 巨石と八幡太郎伝説が息づく日立

本市は、日立鉱山から鉱工業都市へと目覚ましい発展を遂げてきた歴史があり、さらに山と海の幸に恵まれたまちです。たくさんの「ひたちらしさ」があるなかで、ミステリアスな伝説も多く残っています。

今年度は、伝説ベスト5を北から南へと順にご紹介します。(図1)



図1 日立市ミステリアス伝説ベスト5

第1回目として、今回は十王町黒坂に残る八幡太郎義家伝説をご紹介します。

日立市内には多くの義家奇岩伝説が残っています。その中でも「太刀割石」は一番魅力に富んだ伝説です。

江戸・元禄期に水戸藩主として活躍した徳川光圀が「最も奇なり」と、その姿を見て驚き命名したと言われています。あまりにもそのスケールが巨大で、ほぼ中央から二つに割れた巨石です。その大きさは、直径縦7m×横6m、高さ2.5mです。この巨石は、市内で最も高い**豎破山(658m)** 山頂の**黒前神社**周辺で見ることができます。

八幡太郎とは、平安末期に活躍した**武将、源義家**のことで、源頼朝の祖先です。

永保3年(1083)、奥州遠征の途上、**黒前神社**に参拝し、一夜戦勝を祈ったところ、



夢に現れた神様が一振りの大太刀を授けました。目覚めた義家が、この太刀を振り下ろすと大岩はまっ平たつに割れ、石の片割れは地響きと共に転倒し、開口面は天を仰いだといいます。

この太刀割石以外にも、**矢筈石(折笠町)**、**手割石(南高野町)**などの巨石にまつわる伝説が市内各地に点在しています。義家が

いかに勇猛な武将であったかを後世に物語っているといえます。

当センターには、市内を知るための分か

りやすいオススメ作品があります。それは『日立のまち案内人が行く』です。

これは、ケーブルテレビJWAYが、当センター等との協力で、平成21年(2009)から4年間に渡り全38テーマ(1テーマ約5分)を制作。日立のまち案内人14名が、歴史、地理等、市内全域の話題を取り上げ、総合的に分かりやすく解説した番組作品です。

5月連休を生かして、豎破山の七奇岩や「八幡太郎義家伝説」を巡るハイキングを楽しんでみてはいかがでしょうか。



『日立のまち案内人が行く』

ぶどう 怒りの葡萄

The Grapes of Wrath

第13回アカデミー監督賞

助演女優賞：ジェーン・ダーウェル

公開：1940年

時間：128分 貸出番号：1200797

監督：ジョン・フォード 原作：ジョン・スタインベック
脚本：ナナリー・ジョンソン
音楽：アルフレッド・ニューマン
出演者：ヘンリー・フォンダ ジェーン・ダーウェル

西部劇の巨匠がアメリカ文学作品を映画化した作品。貧しくとも前向きに生きようとする家族の姿を力強く叙情豊かに描いた社会派感動作品。

今月の
オススメ
豊田

